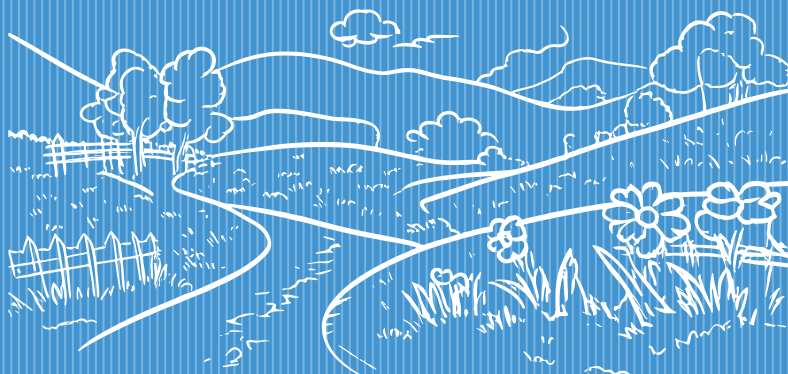


ばんけい

教育 ほんとうにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径No.206  
2025 December  
12月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



## 今月のことば

亀の甲より  
年の劫長い時間をかけて多く  
積み上げてきた経験  
は、何よりも貴く、価値  
があるということです。  
「年の功」とも書きます。

## 教師のスキルアップ策 ―もう1つの研修「自己研修」で―

- 教師のスキルをアップさせる研修には、校内研修や行政研修のほかに、自ら取り組む「自主研修」があります。
- 「自主研修」にもさまざまなタイプがあります。そのなかでも、特に教師自らが「問い」をもって取り組む「自己研修」を重視します。

## 校内研修と行政研修

教師は絶えず研究と修養に努めなければならないと法律で規定されているように、研修は職務の遂行に当たって重要な意味をもっています。研修は教師としての指導技術（スキル）をアップさせるだけでなく、人間としての資質・能力を高める役割があります。

研修の種類やタイプにはさまざまあります。研修の場や機会に焦点を当てると、次のように整理することができます。1つは各学校での研修（校内研修）です。ここでは教育委員会から要請された課題のほかに、校内で定めたテーマにもとづいて実施されます。実技研修や課題研修、事例研究や授業研究などがこれに当たります。

2つは、文部科学省や教育委員会など行政が実施する研修（行政研修）です。ここでは教職経験や職能に応じた内容、教科や教育課題に関する内容などが研修されます。いずれも教師としての資質・能力を向上させる重要な意味をもっています。職務として行われますから、校内研修と同じように勤務時間内に行われます。これらの研修には義務的な意味合いがあります。

研修について語るとき多くの場合、上記の2つがあげられますが、もう1つ

の研修として、教師一人一人が自ら行う「自主研修」があります。

## 「自主研修」とはどんな研修か

「自主研修」とは文字どおり自主的に取り組む研修です。多くは勤務している場所を離れて、勤務時間外に行われます。例えば次のようなタイプの自主研修があります。

まず、民間の教育研究団体や大学の研究者の学会などが開催する研究会や発表会などに自分の意思で参加することです。民間の企業や研究機関が開催する研修会や講習会もあります。多くの場合、土・日曜日や夏休みなど長期休業日に実施されます。参加費が徴収されることもあります。

次に、有志が集まって同好会や研究会を組織し、レポートなどを持ち寄って研修するタイプです。そこでは共通した課題やテーマが設定されます。皆で協働して運営し、自由に議論されますから、参加者の参画意欲が高まる研修です。勤務時間外に行われ、指導者やリーダーがいる場合もあります。

そしていま1つは、ひとりで自主的に取り組む研修（自己研修）です。義務や強制力はまったくありません。そのために強固な問題意識と持続的な追究意欲が求められます。実施の内容や

方法、場所や時間のすべてを自ら計画し実施します。これから重視したい研修のタイプです。

これらの3つの自主研修は義務的な意味あいをもつ校内研修や行政研修と異なり、自らの判断で取り組む自発的な研修です。これらのなかでも重視したいのが「自己研修」です。

## 自ら「問い」をもって取り組む

教師は子どもたちに自ら「問い」をもって追究するよう求めています。ここでいう「問い」をもつとは疑問や課題を自ら設定することです。

これからは、学校教育を巡る情勢や日ごろの教育活動に対して、教師も自ら「問い」をもち、それを自ら追究・解決していくことが求められます。これが「自己研修」です。

自己研修には、教育に関連する図書や新聞記事を読み解く。授業記録を録って分析する。博物館などを見学して教材を研究する。識者の講演会に行き、新しい情報を収集するなどさまざまな方法があります。これらを駆使して、自ら設定した「問い」（疑問や課題）を解決します。

自発的な自己研修により、教師としての資質・能力を豊かにし、教育活動の質を向上させることができます。

## 今月の記念日

12月31日

おお み そ か

大晦日

1年の最後の日です。寺院では108の煩悩を取り除く意味を込めて、釣り鐘を108回つきます。除夜の鐘といえます。毎月の末日は晦日です。

## 子どもとはいかなる存在か

「子ども観」とは子どもの捉え方です。子どもはそもそものような存在なのかを理解することです。まず子どもの定義が必要ですが、法律的な規定はさておき、ここでは小学生など成長期の子どものしておきます。

子どもをどう捉えるかによって、教師の指導の仕方が大きく変わってきます。指導の様子を観察していると、授業者の子ども観が伝わってきます。

子どもは本来よさや可能性を内に秘めています。もっとよくなりた、もっとできるようになりたいという願いや意欲や向上心をもっています。教師はそれらを引き出し伸ばすことで、子どもたちは成長していきます。いろんなことに興味や関心をもち、好奇心に溢れている子どももいます。教師が内発的な動機づけをすることで、子どもの追究心に火がつかます。

子どもたちは素朴な疑問をもつ、はてな発見の「名人」です。「どうしてかな」などとつぶやきを聞いたとき、子どもの疑問を大切にしたいと思っている教師や親は、「そうだね。どうしてだろうね」と共感的に受けとめ、自ら解決するよう促します。

一方、子どもは何もできない、何も知らない存在だと捉える教師は、あれもこれも教え込もうとします。子どもに興味ややる気がないと受けとめている教師は、子どもの関心と関係なく一方的に引っ張っていきこうとします。教師の意図や願いどおりにいかないと「どうしてできないのか」「どうしてわからないのか」と、つい厳しく叱責することが多くなります。

確かな子ども観をもって、日々子どもたちの指導に当たりたいものです。



## 学校施設の防災機能調査

学校は子どもたちが日常的に学び生活する場です。また、各地で自然災害が多発している今日、学校は地域住民が身を守るための避難場所として重要な役割を担っています。

文部科学省は、学校施設の防災機能を向上させることを目的に、全国の公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象に、防災機能設備の確保状況を令和6年11月に調査し、その結果を公表しています。

それによると、避難所に指定されている学校は全体の91.7%でした。数にすると3万校近くにのぼります。そのう

ち、学校施設の利用方針を策定している学校は70.5%でした。

防災機能に関わる設備等を確保している学校は、非常用発電機が77.2%、飲料水が83.4%、冷房機器が85.5%、暖房機器が86.3%、ガスの設備が78.2%、通信設備が85.3%、入浴や洗濯等の生活用水が36.7%、断水時のトイレ対策が75.1%という結果でした。

なお、文科省の別の調査では、避難所に指定されている小中学校の体育館の冷房設置率は令和7年5月の時点で約2割に留まっていました。

自然災害等の発生時に住民の命を守るためには、学校の防災機能を整備するとともに、整備された防災施設・設備が十分に機能するかなど、不断の点検と拡充が求められます。



## 各種調査の狙いは何か

文部科学省や教育委員会は学校の教育活動や子どもの学習・生活の状況を把握するために、学校に対してさまざまな調査を実施しています。実態把握には課題を明確にし、次の施策を打ち出すための基礎資料を得るという重要な役割があります。

子どもたちに1人1台のタブレット端末が整備されています。当初は学校現場に「使わなければならない」という意識がありました。いまでは、学用品のひとつとして機器に使われることがなく、必要に応じて主体的に活用することが大切だといわれています。

教育委員会などから「日々の授業でどの程度タブレットを使っているか」などと、活用状況が調査されることがあ

ります。調査後には、各学校や教科での活用状況が数字で公表されます。調査結果はほかの学校や地域などと比較しがちです。数字が低いと、教師に数字を高めようとする意識が働き、活用する機会を増やそうとします。

1人1台のタブレットの配備には、4,600億円という多額の費用が投入されましたから、有効に活用することは必要です。ただ調査が引き金になって、数字を上げようと無理な活用方法や無駄な活用場面が生まれていないか気がかりです。

教育委員会などが実施する各種の調査には実態を把握することにとどまらず、質問事項に関わる施策を推進することに狙いがあります。数字を高めるために教育活動が歪められることがないようにしたいものです。教育委員会などの調査は、大学の研究者や研究所が実施する調査とは、狙いが異なることに留意する必要があります。(1)

### INFORMATION

## 自然災害防止教育と学校の役割

防災訓練や避難訓練を行うだけでなく、その意義や必要性を子どもたちに認識させることの重要性を説いた一書!

著者/北 俊夫  
定価/1,430円(税込)  
発行/株式会社文溪堂

ご注文は文溪堂代理店まで



「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

### 編集後記

民間が主催する教育研修会の運営をお手伝いしたことがあります。土・日曜日に、自腹で参加費を払い、遠方から参加される先生も多くおられました。その熱意や気概には、いつもスタッフ一同感服し、「来てよかった」と思っていただけの研修会にしなければと、気の引き締まる思いでした。(H記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所  
発行: 株式会社文溪堂  
発行日: 2025年12月1日